

【書評】

中村哲編『グローバル教育としての社会科カリキュラムと授業構成』

(風間書房, 2004年刊)

藤原孝章

(同志社女子大学)

グローバル教育に関する優れた研究書が公刊された。いわゆる国際理解教育に関する授業書、研究書は数多く出ているが、内容的には、帰国児童・生徒や外国人児童など学習者に焦点を当てた異文化間教育から、「総合学習」、特別活動・道徳、教科学習への視点を提供する異文化理解、多文化、人権、平和、環境、開発の各教育まで、広くかつ多岐にわたる。それゆえ、教育目標や内容領域、小・中・高の系統性、単元開発、授業構成、授業実践など、一貫した視点でのカリキュラム開発が緊急の課題になっていた。

本書は、「グローバル教育としての社会科」という理論観点からこのようなカリキュラム開発の課題に応えるとともに、社会科教育内容改革研究ともいうべき成果を得ている。

本書の構成は、次のようになっている。

- I. 序論
  - II. グローバル教育の性格とカリキュラム編成論
  - III. グローバル教育としての統合的カリキュラム編成論
  - IV. グローバル教育としての社会科カリキュラム編成論
  - V. グローバル教育としての社会科カリキュラム編成論に基づく授業構成
  - VI. グローバル教育としての小学校社会科カリキュラムの開発
  - VII. グローバル教育としての小学校社会科授業の開発
  - VIII. 結論
- あとがき  
研究概要 (韓国語)

I章では、本書の研究課題が述べられるとともに、グローバル教育の定義と日本におけるグローバル教育研究のレビューがなされている。II章で

は、アメリカにおけるグローバル教育の成立背景と教育目標・内容の基本性格を論じ、理論仮説として(1)融合的(2)統合的(3)社会科というグローバル教育の3つのカリキュラム編成論を提案している。第III章では、統合的カリキュラム編成論として、B.A.リアドンのホリスティック価値アプローチに基づくカリキュラム編成原理を明らかにしている。第IV章では、W.M.クニープのカリキュラム編成原理に基づいたグローバル教育としての社会科のカリキュラム原理を明らかにしている。第V章では、それを、小学校の授業事例において分析し、授業構成原理を明らかにしている。第VI章では、その原理を、韓国小学校社会科カリキュラムの開発視点に適用し、改善点を提示している。第VII章では、グローバル教育としての韓国社会科の具体的な授業事例を開発している。

編者が「あとがき」で触れているように、本書は、田鎬潤氏と松井克行氏の兵庫教育大大学院連合学校教育学研究科博士課程論文を中心に構成され、指導教官である中村哲氏の理論仮説を取り入れたものである。国際理解に関する教育のとらえ方に若干の整合性を欠く部分もあるが、グローバル教育のカリキュラム編成のあり方を、教科内への視点や視野の導入としての融合型、新教科や特設科目(たとえば「人権科」として)の統合型、そして学際的な内容の総合としての社会科型という、3つのカリキュラム論(理論仮説)として明らかにした功績は、安藤輝次、金子邦秀、魚住忠久、大津和子、木村一子や筆者らのグローバル教育研究を理論的、実践的にも一歩すすめるもので、研究の地平を切り開いたといえよう。また、韓国社会科の教育内容改善という意味でも国際的な研究になっている。